

7 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

〔注意事項〕

- 1 答えは、全て解答用紙に記入すること。
- 2 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の二種類がある。
- 3 マーク式問題の答えはマーク式解答用紙に、記述式問題の答えは記述式解答用紙に記入すること。
- 4 マーク式問題の答えは、問題で示された解答番号の欄にある数字をマークすること。例えば、解答番号1と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のようにマーク式解答用紙の解答番号1の解答欄③にマークすること。

(例)

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④

二 次の文章を読んで、あとの問一〜八に答えなさい。(問一〜五はマーク式問題、問六〜八は記述式問題です。)なお、設問の關係で、本文の段落に 1 14 の番号を付しています。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

7 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

7 中学校 国語科 問題用紙  
(11枚のうち3)

受験番号

氏名

(答えは、全て解答题紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(安藤 宏 「私」をつくる 近代小説の試み」による。)

問一 ① 置かれてきた」とありますが、「置かれて」と「きた」の文節どうしの関係として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号1の解答欄にマークしなさい。

- ① 主語・述語の関係 ② 修飾・被修飾の関係 ③ 接続の関係 ④ 補助の関係

問二 ① 世、② 背後とありますが、それぞれの本文中における意味と同じ意味をもつものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ選び、その番号を答えなさい。⑤は解答番号2の解答欄に、⑥は解答番号3の解答欄にそれぞれマークしなさい。

- ① 世襲 ② 世論 ③ 世帯 ④ 世代  
⑤ 背後 ⑥ 背信  
① 背信 ② 背任 ③ 背景 ④ 背徳

問三 X に当てはまる最も適切な語を、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号4の解答欄にマークしなさい。

- ① だが ② したがって ③ あるいは ④ すなわち

問四 Y に当てはまる最も適切な語を、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号5の解答欄にマークしなさい。

- ① 意志 ② 見識 ③ 判断 ④ 裁可

問五 この文章の構成に関する説明として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号6の解答欄にマークしなさい。

- ① [1]段落では小説全体をつかさどる人称の問題を指摘し、[2]段落ではなぜ近代にそのような問題が起こったかについて、時代背景を基に要因を明示し、[3]段落ではその問題が起こる前の時代との比較を行っている。  
② [4]段落では本論である近代小説の人称についての問題提起をし、[5]、[6]、[7]、[8]段落ではこれを具体的に論じるために『雪国』を提示して、西洋語に対する日本語の客観的視点の優位性を述べている。  
③ [9]段落では、近代の文学において西洋的な「客観性」がどのような位置付けであったかについて述べ、[8]段落の末尾で触れた言文一致体が、ここで重要な役割を担っていたことを説明した後、[10]段落からの自然主義の『描写論』につながる。④ [10]段落から[14]段落では田山花袋の『描写論』に触れ、「あるがままに写す」と、「ありのまま」をよそおう、この違いを比較して、客観的な事実の提示を知覚動詞で表すことの難しさについて述べている。

との違いを比較して、客観的な事実の提示を知覚動詞で表すことの難しさについて述べている。

中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち4)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答题紙に記入すること。)

問六 A こうした制約とありますが、それはどのような制約であると筆者は述べていますか。百二十字以内で書きなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。

問七 B 必要に応じて読者と作中世界とをつなぐ「私」をいかに機能させていくかに、日本語の言文一致体小説の成功がかけられていたわけである」とありますが、筆者は14段落より後の文章で、「隠れた「私」が自在に立ち回り、伝統的な和文脈の性格を生かしつつ、同時に世界を統括する主体を求める近代小説の要請にも応えようとしている」と考えるべきなのではあるまいか。」と述べています。これらの筆者の主張を踏まえて、「必要に応じて読者と作中世界とをつなぐ「私」とはどのようなものであるかを明らかにして、次の【資料】における語り手の視点を、【資料】から根拠となる描写を挙げて、具体的に説明しなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。

【資料】

それから、何分かの後である。羅生門の楼の上へ出る、幅の広い梯子の中段に、一人の男が、猫のように身をちぢめて、息を殺しながら、上の容子を窺っていた。楼の上からさす火の光が、かすかに、その男の右の頬をぬらしている。短い鬚の中に、赤く膿を持った面皰のある頬である。下人は、始めから、この上にいる者は、死人ばかりだと高を括っていた。それが、梯子を二三段上って見ると、上では誰か火をとぼして、しかもその火をそこそこと動かしているらしい。これは、その濁った、黄いろい光が、隅々に蜘蛛の巣をかけた天井裏に、揺れながら映ったので、すぐにそれと知れたのである。この雨の夜に、この羅生門の上で、火をともしているからは、どうせ唯の者ではない。

下人は、守宮のように足音をぬすんで、やっと急な梯子を、一番上の段まで這うようにして上りつめた。そうして体をできるだけ、平らにしながらか、頸をできるだけ、前へ出して、恐る恐る、楼の内を覗いてみた。

(芥川 龍之介 「羅生門」による。)

問八 ㊦ ㊧ の語について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で、それぞれ書きなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。

中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち5)

受験番号	
氏名	

(答えは、全て解答题紙に記入すること。)

二 次の文章を読んで、あとの問一〜六に答えなさい。(問一〜三はマーク式問題、問四〜六は記述式問題です。)

旅人の宿求めけるに、大きやかなる家 I の、あばれたるがありけるによりて、「ここに宿し <sup>㉑</sup>給ひてんや」といへば、女声にて「よき事、宿り給へ」といへば、皆おりゐにけり。屋大なれども人のありげもなし。ただ女一人ぞあるけはひしける。

かくて <sup>A</sup>夜明けにければ、物食ひしたためて出でて行くを、この家にある女出でて来て、「<sup>B</sup>え出でおはせじ。とどまり給へ」といふ。「<sup>A</sup>こはいかに」と問へば、「おのれが金千両を負ひ <sup>㉒</sup>給へり。その弁へしてこそ出で給はめ」といへば、この旅人 <sup>㉓</sup>従者ども笑ひて、「あら、<sup>㉔</sup>しや、<sup>㉕</sup>さんなめり」といへば、この旅人、「しばし」といひて、またおりゐて、<sup>㉖</sup>皮籠を乞ひ寄せて幕引きめぐらして、しばしばかりありて、この女を呼びければ、出で来にけり。

旅人間ふやうは、「この親はもし易のうらといふ事やせられし」と問へば、「いさ、<sup>C</sup>さ侍りけん。そのし給ふやうなる事はし <sup>㉗</sup>給ひき」といへば、「さるなる」といひて、「さても何事にて千両の金負ひたる、その弁へせよとはいふぞ」と問へば、「おのれが親の失せ侍りし折に、世の中にあるべき程の物など得させ置きて申ししやう、『今なん十年ありてその月にここに旅人来て宿らんとす。その人は我が金を千両負ひたる人なり。それにその金を乞ひて、耐へがたからん折は売りて過ぎよ』と申ししかば、今までは親の得させて侍りし物を少しづつも売り使ひて、今年となりては売るべき物も侍らぬままに、『いつしか我が親のいひし月日の、とく来かし』と待ち侍りつるに、今日に当りておはして宿り給へれば、『金負ひ給へる人なり』と思ひて申すなり」といへば、「金の事はまことなり。さる事あるらん」とて、女を片隅に引きて行きて、人にも知らせで柱を叩かすれば、うつほなる声のする所を、「くは、これが中にたまふ金はあるぞ。あけて少しづつ取り出でて使ひ <sup>㉘</sup>給へ」と教へて出でて往にけり。

この女の親の、易のうらの上手にて、この女の有様を <sup>㉙</sup>勘へけるに、「今十年ありて貧しくならんとす。その月日、易の占ひする男来て宿らんず」と勘へて、「かかる金あると告げては、まだしきに取り出でて使ひ失ひては、貧しくならん程に使ふ物なくて惑ひなん」と思ひて、しか言ひ教へ、死にける後にも、この家をも売り失はずして今日を待ちつけて、この人をかく責めければ、これも易の占ひする者にて、心を得て占ひ出して教へ、出でて往にけるなりけり。

<sup>D</sup>易のうらは、行く末を <sup>㉚</sup>掌の中のやうに指して知る事にてありけるなり。

(「宇治拾遺物語」による。)

(注1) しゃ || 憎たらしい相手をののしつて言う呼称。こいつめ。

(注2) ざん || 讒言のこと。

中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち6)

受験番号

氏名

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問一 ア「こはいかに」とありますが、これの本文における意味として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号7の解答欄にマークしなさい。

- ① これはどうにもならない
- ② 子供はどうしたのだ
- ③ これは従者に言いなさい
- ④ これはどうしたことが

問二 I「と同じ用法であるものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号8の解答欄にマークしなさい。

- ① 草の上に置きたる露
- ② 草の花はなでしこ。唐のはさらなり
- ③ いと清げなる僧の黄なる地の袈裟着たるが来て
- ④ かぐや姫、月のおもしろく出でたるをみて

問三 a「給ひ」、b「給へ」、c「給ひ」、d「給へ」とありますが、それぞれの敬意の対象の組合せとして最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号9の解答欄にマークしなさい。

- |   |      |       |       |      |
|---|------|-------|-------|------|
| ① | a 旅人 | b 女の親 | c 旅人  | d 旅人 |
| ② | a 旅人 | b 旅人  | c 旅人  | d 女  |
| ③ | a 女  | b 女の親 | c 女の親 | d 旅人 |
| ④ | a 女  | b 旅人  | c 女の親 | d 女  |

問四 A「夜明けにければ」、B「え出でおはせじ」の現代語訳をそれぞれ書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問五 C「さ」とありますが、これはどのようなことを指していますか。二十字以内で書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問六 D「易のうらはは、行く末をたなごころ掌たなごころ」の中のやうに指して知る事にてありけるなりとありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。本文の内容に触れて書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

# 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち7)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

三 次の文章を読んで、あとの問一〜六に答えなさい。(問一〜四はマーク式問題、問五・六は記述式問題です。)なお、設問の關係で返り点・送り仮名・符号を一部省略しています。

昔晋ノ<sup>註1</sup>文公、將<sup>註2</sup>与<sup>註3</sup>楚人<sup>註4</sup>一戰中<sup>註5</sup>於<sup>註6</sup>城濮<sup>註7</sup>上<sup>註8</sup>ニ、召<sup>註9</sup>シテ<sup>註10</sup>咎犯<sup>註11</sup>ヲ<sup>註12</sup>而<sup>註13</sup>問<sup>註14</sup>ヒテ<sup>註15</sup>曰<sup>註16</sup>ハク、  
楚ハ衆ク我ハ寡ナシ、<sup>註17</sup>ア奈何<sup>註18</sup>而可ナラント。咎犯対<sup>註19</sup>ヘテ<sup>註20</sup>曰<sup>註21</sup>ハク、臣聞ク、<sup>註22</sup>繁礼<sup>註23</sup>之<sup>註24</sup>君ハ  
不<sup>註25</sup>レ<sup>註26</sup>足<sup>註27</sup>ニ<sup>註28</sup>於<sup>註29</sup>詐<sup>註30</sup>ニ<sup>註31</sup>。君モ亦タ詐<sup>註32</sup>レ<sup>註33</sup>ラン<sup>註34</sup>之<sup>註35</sup>ヲ<sup>註36</sup>而<sup>註37</sup>已<sup>註38</sup>ト。  
文公以<sup>註39</sup>テ<sup>註40</sup>咎犯ノ言<sup>註41</sup>ヲ告<sup>註42</sup>ニ<sup>註43</sup>グ<sup>註44</sup>。雍季<sup>註45</sup>曰<sup>註46</sup>ハク、<sup>註47</sup>城濮<sup>註48</sup>レ<sup>註49</sup>クシテ<sup>註50</sup>沢<sup>註51</sup>ヲ<sup>註52</sup>而<sup>註53</sup>漁<sup>註54</sup>セバ、  
X<sup>註55</sup>豈<sup>註56</sup>ニ<sup>註57</sup>不<sup>註58</sup>ニ<sup>註59</sup>ランヤ<sup>註60</sup>獲得<sup>註61</sup>セ、而<sup>註62</sup>レドモ<sup>註63</sup>明年無<sup>註64</sup>レ<sup>註65</sup>カラン<sup>註66</sup>魚<sup>註67</sup>。焚<sup>註68</sup>レ<sup>註69</sup>イテ<sup>註70</sup>藪<sup>註71</sup>ヲ<sup>註72</sup>而<sup>註73</sup>田<sup>註74</sup>セバ、豈<sup>註75</sup>ニ<sup>註76</sup>不<sup>註77</sup>ニ<sup>註78</sup>ランヤ<sup>註79</sup>獲  
得<sup>註80</sup>セ、而<sup>註81</sup>レドモ<sup>註82</sup>明年無<sup>註83</sup>レ<sup>註84</sup>カラン<sup>註85</sup>獸<sup>註86</sup>。詐偽之道ハ、雖<sup>註87</sup>ニ<sup>註88</sup>モ<sup>註89</sup>今<sup>註90</sup>儉<sup>註91</sup>ク<sup>註92</sup>可<sup>註93</sup>ナリト、後將<sup>註94</sup>レ<sup>註95</sup>ニ<sup>註96</sup>無<sup>註97</sup>レ<sup>註98</sup>カラント  
復<sup>註99</sup>ニスルコト、非<sup>註100</sup>ニ<sup>註101</sup>ザル<sup>註102</sup>長術<sup>註103</sup>ニ<sup>註104</sup>也<sup>註105</sup>ト。文公用<sup>註106</sup>ニ<sup>註107</sup>ヒテ<sup>註108</sup>咎犯之<sup>註109</sup>言<sup>註110</sup>ヲ、而<sup>註111</sup>敗<sup>註112</sup>ニ<sup>註113</sup>ル<sup>註114</sup>楚人ヲ<sup>註115</sup>於<sup>註116</sup>城  
濮<sup>註117</sup>ニ<sup>註118</sup>。

Y<sup>註119</sup>反<sup>註120</sup>リテ<sup>註121</sup>而<sup>註122</sup>爲<sup>註123</sup>レ<sup>註124</sup>ス<sup>註125</sup>ニ<sup>註126</sup>賞<sup>註127</sup>ヲ、雍季<sup>註128</sup>在<sup>註129</sup>レ<sup>註130</sup>リ<sup>註131</sup>上<sup>註132</sup>ニ<sup>註133</sup>。イ左右<sup>註134</sup>諫<sup>註135</sup>メテ<sup>註136</sup>曰<sup>註137</sup>ハク、城濮<sup>註138</sup>之功<sup>註139</sup>ハ、咎犯之  
謀也。君用<sup>註140</sup>ニ<sup>註141</sup>ヒ<sup>註142</sup>其<sup>註143</sup>ノ<sup>註144</sup>言<sup>註145</sup>ヲ、而<sup>註146</sup>シテ<sup>註147</sup>賞<sup>註148</sup>スルコト<sup>註149</sup>後<sup>註150</sup>ニ<sup>註151</sup>ス<sup>註152</sup>其<sup>註153</sup>ノ<sup>註154</sup>身<sup>註155</sup>ヲ。或<sup>註156</sup>イ<sup>註157</sup>者<sup>註158</sup>不<sup>註159</sup>可<sup>註160</sup>ナラン<sup>註161</sup>乎<sup>註162</sup>ト。文  
公曰<sup>註163</sup>ハク、雍季之<sup>註164</sup>言<sup>註165</sup>ハ、百世之<sup>註166</sup>利<sup>註167</sup>也。咎犯之<sup>註168</sup>言<sup>註169</sup>ハ、一時之<sup>註170</sup>務<sup>註171</sup>也。焉<sup>註172</sup>ン<sup>註173</sup>有<sup>註174</sup>下<sup>註175</sup>ラン  
以<sup>註176</sup>ニ<sup>註177</sup>テ<sup>註178</sup>一時之<sup>註179</sup>務<sup>註180</sup>ヲ<sup>註181</sup>先<sup>註182</sup>ニ<sup>註183</sup>ズル<sup>註184</sup>百世之<sup>註185</sup>利<sup>註186</sup>ニ<sup>註187</sup>者<sup>註188</sup>上<sup>註189</sup>乎<sup>註190</sup>ト。孔子聞<sup>註191</sup>レ<sup>註192</sup>キテ<sup>註193</sup>之<sup>註194</sup>ヲ<sup>註195</sup>曰<sup>註196</sup>ハク、臨<sup>註197</sup>レ<sup>註198</sup>ン<sup>註199</sup>デ<sup>註200</sup>難<sup>註201</sup>ニ  
用<sup>註202</sup>レ<sup>註203</sup>フ<sup>註204</sup>詐<sup>註205</sup>ヲ、足<sup>註206</sup>ニ<sup>註207</sup>ル<sup>註208</sup>以<sup>註209</sup>テ<sup>註210</sup>却<sup>註211</sup>レ<sup>註212</sup>クル<sup>註213</sup>ニ<sup>註214</sup>敵<sup>註215</sup>ヲ。反<sup>註216</sup>リテ<sup>註217</sup>而<sup>註218</sup>尊<sup>註219</sup>レ<sup>註220</sup>ブ<sup>註221</sup>賢<sup>註222</sup>ヲ、足<sup>註223</sup>ニ<sup>註224</sup>ル<sup>註225</sup>以<sup>註226</sup>テ<sup>註227</sup>報<sup>註228</sup>レ<sup>註229</sup>ユル<sup>註230</sup>ニ<sup>註231</sup>徳<sup>註232</sup>ニ<sup>註233</sup>。B<sup>註234</sup>文  
公雖<sup>註235</sup>不<sup>註236</sup>終<sup>註237</sup>始<sup>註238</sup>、足<sup>註239</sup>ニ<sup>註240</sup>ル<sup>註241</sup>以<sup>註242</sup>テ<sup>註243</sup>霸<sup>註244</sup>一<sup>註245</sup>タル<sup>註246</sup>ニ<sup>註247</sup>矣<sup>註248</sup>。

(「呂氏春秋」による。)

(注1) 文公 || 晋の内乱に遭い、諸国を十九年放浪した後、帰国して即位し、名君と讃えられた。

(注2) 繁礼 || 煩瑣な礼。

(注3) 文 || 礼を飾ること。

(注4) 竭 || 干す。

(注5) 田 || 狩り。

受験番号

氏名

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問一 **A** 何の本文中における送り仮名も含めた読み方として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号10の解答欄にマークしなさい。

- ① いくばくぞ ② いかにして ③ いかんせん ④ なんすれぞ

問二 **I** 左の本文中における意味として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号11の解答欄にマークしなさい。

- ① 平民 ② 上司 ③ 側近 ④ 君主

問三 **A** 繁戦之君ハ不レト足ニカ於詐ニとありますが、その解釈として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号12の解答欄にマークしなさい。

- ① 戦争で国が脅かされている君主は、敵に欺かれることに限りがない  
 ② 戦争で自国の武力に自信のある君主は、詐術に頼ろうとしない  
 ③ 戦争に明け暮れる君主は、いくらでも詐術を用いる  
 ④ 戦争によって国の発展を目指す君主は、敵を欺くことを良しとしない

問四 **B** 文公雖不終始を訓読する場合、「雖」にどのような返り点を施せばよいですか。その返り点として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号13の解答欄にマークしなさい。

- ① 三 ② 下 ③ レ ④ 下

問五 **X** 豈ニ不ニラシヤ獲得一セ、而レドモ明年無レカラン魚の現代語訳を書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問六 **Y** 反リテ而爲レヌニ賞ヲ、雍季在レリ上ニとありますが、文公が雍季を答犯よりも高い地位に就けたのはなぜですか。その理由を、本文の内容に触れて、百五十文字以内で書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。



中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち9)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

- 四 平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領 国語 各学年の目標及び内容 (第1学年) 内容 (思考力、判断力、表現力等) B 書くこと (1) アには、「目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。」「と示されています。生徒が、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるようになるために、どのような学習を行わせることが重要だと考えられますか。具体的に書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

受験番号

氏名

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

【五】平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領 国語 各学年の目標及び内容 「第2学年」 内容 「思考力、判断力、表現力等」 C 読むこと (1) エ には、「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。」と示されています。あなたは、この指導事項に基づいた単元を設定しようとしています。次の表中の【目標】は、この指導事項に基づいて設定した「思考力、判断力、表現力等」の目標、【言語活動】は、【目標】を実現するための言語活動、【評価規準】は、この単元において設定した「思考・判断・表現」の観点に関する評価規準です。また、【ポイント】は、文章の構成や表現の効果について考える際の指導のポイントとして設定した事項、【単元の流れ】は、この単元の流れを示したものです。これらについて、あとの「問い」に答えなさい。

【目標】	観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考えることができる。
【言語活動】	「徒然草に学ぶ文章の秘訣！ 読む人を引き付け、教訓が得られるような失敗談を書くには」というテーマで、「徒然草」の複数の章段を比較しながら読み、文章の構成や表現の効果について分析し、それらを生かして、読む人を引き付け、教訓が得られるような失敗談を書く。
【評価規準】	<p>「読むこと」において、読む人を引き付け、教訓が得られるという目的にふさわしい構成や表現となっているかという観点に基づいて、「徒然草」の複数の章段を比較しながら読み、文章の構成や表現の効果について考えている。</p> <p>○ 文章の構成について考える際には、文章全体や部分における構成を把握した上で、なぜそのような構成にしたのかについて、根拠を明確にして、自分なりの考えをもつことができるように指導する。</p> <p>○ 表現の効果について考える際には、その表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上でどのように働いているかなどを、根拠を明確にして考えるように指導する。</p>
【ポイント】	
【単元の流れ】	<p>【一次】 単元の見通しをもち、教科書を用いて、文章の構成や表現の効果の捉え方について学ぶ。</p> <p>【二次】 読む人を引き付け、教訓が得られるという目的にふさわしい構成や表現となっているかという観点に基づいて、「徒然草」の複数の章段を比較しながら読み、構成や表現の効果分析する文章を書く。</p> <p>【三次】 【二次】での学習を生かして、読む人を引き付け、教訓が得られるような失敗談を書く。</p> <p>【四次】 お互いが書いた失敗談を読み合い、構成や表現の効果について交流し、単元全体の学習を振り返る。</p>

【問い】 あなたは、この単元の【単元の流れ】に示す【三次】・【四次】において、「読む人を引き付け、教訓が得られるような失敗談を書き交流する」ということを学習課題として設定しています。そのために、【二次】において、次の【教材】を提示し、【ポイント】を踏まえた指導をしようとしています。読む人を引き付け、教訓が得られるという目的にふさわしい構成や表現となっているかという観点で、生徒が「徒然草」の複数の章段を比較しながら読み、構成や表現の効果について分析したことを記述した文章として、「おおむね満足できる」状況(B)を満たす文章を具体的に想定し、あとの条件1・2に従って書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

【教材】

第五二段

仁和寺にある法師、年よるまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、ただひとりかちより詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。さて、かたへの人にあひて、「年比思ひつること、果し侍りぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へのぼりしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしき事なり。

第二三六段

丹波に出雲といふ所あり。大社を移して、めでたく造れり。しだのながしとかやしる所なれば、秋の比、聖海上人、その外も、人数多さそひて、「いざ給へ、出雲拝みに。かいかちひ召させん」とて、具しもて行きたるに、各拝みて、ゆゆしく信おこしたり。御前なる獅子・狛犬、背きて、後さまに立ちたりければ、上人いみじく感じて、「あなめでたや。この獅子の立ちやう、いとめづらし。深き故あらん」と涙ぐみて、「いかに殿原、殊勝の事は御覧じとがめずや。無下なり」と言へば、各怪しみて、「誠に他にことなりけり。都のつとに語らん」など言ふに、上人なほゆかしがりて、おとなしく物知りぬべき神官を呼びて、「この御社の獅子の立てられやう、定めて習ひあることに侍らん。ちと承らばや」と言はれければ、「その事に候ふ。さがなき童どもの仕りける、奇怪に候ふことなり」とて、さし寄りて、据ゑなほして往にければ、上人の感涙いたづらになりけり。

(「徒然草」による。)

条件1 【教材】の両方の章段について、根拠となる叙述を挙げて書くこと。

条件2 「文章の構成」、「表現の効果」の両方の項目を取り上げ、いずれの項目についての言及かが分かるように明示して書くこと。

氏名

⑦ 中学校 国語科 マーク式解答用紙

受験番号

0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

一

解答番号	解答欄
1	① ② ③ ④
2	① ② ③ ④
3	① ② ③ ④
4	① ② ③ ④
5	① ② ③ ④
6	① ② ③ ④

二

解答番号	解答欄
7	① ② ③ ④
8	① ② ③ ④
9	① ② ③ ④

三

解答番号	解答欄
10	① ② ③ ④
11	① ② ③ ④
12	① ② ③ ④
13	① ② ③ ④

〔記入上の注意〕

- 余白には何も記入しないでください。
- HBまたはBの鉛筆で該当する ○ にマークしてください。  
 マーク例 《良い例》 ●  
 《悪い例》 ◊ ◌ ✕
- 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- 受験番号については、6桁の数字を記入したうえで、該当する ○ にマークしてください。



7

中学校 国語科 記述式解答用紙

(4枚のうち1)

受験番号

氏名

一		問題番号	解答欄	問一〜五は、マーク式解答用紙に記入すること。	問六					問七					問八			
㊦																	⑦	
①																		⑧
②																		⑨
③																		⑩
④																		⑪



7

中学校 国語科

記述式解答用紙

(4枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄
四	

7

中学校 国語科 記述式解答用紙

(4枚のうち4)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

五